

あまみのぼっけん

名瀬市立朝日小学校 一ねん いずみだ まりあ

わたしのなまえは、「まりあ」っていうの。七がつにかぞくで、あまみしぜんかんさつのもりにいったんだ。なぜって、それはね、きれいなちようちよとりをしたかったからなんだ。そこは、ちようちよがいつぱいだった。おかあさんが、

「ちようちよのおうこくみたいだね。すごいね。」
といった。まりあもそうおもった。

それから、かぞくで、ちようちよとりがはじまった。ほんとうに、きれいなちようちよがいつぱいなので、おいかけて、おにごっこをしているみたいでたのしかった。あせびっちよりになって、いろいろなちようちよをつかまえた。おとうさんが、一ばんたくさんつかまえたので、すごいなあとおもった。

まりあは、ちようちよのなまえもたくさんおぼえたよ。おしえてあげるね。

リュウキュウアサギマダラは、あおいもようがまだらになっていて、まりあの一ばんのおきにいりのちようちよだった。それとにているのは、アオスジアゲハで、あおいすじが一ばんきれいなちようちよだった。すごく大きなちようちよもいたよ。大きなモンキアゲハや、まっくろくろすけでカラスみたいなカラスアゲハ、そして、むらさきいろのきれいなアゲハのムラサキシジミは、大きくてとてもきれいだっ

ほかにもいつぱいいたんだよ。こびとさんのようにちいさくて、きいろのモンキチョウはかわいかったよ。

ツマベニチョウは、いろんなところで、よくみかけるちようだった。いままでみたことのない、とつてもめずらしかったのは、イシガケチョウだった。はじめてみることでできてうれしかったよ。

こんなにいつぱいのちようちよさんが、あまみにいるなんて、すごいなあ、まりあは、ここからおもったんだ。

どれくらいじかんがたつたのかわからないけど、しばらくして、まりあのおきにいりのリュウキュウアサギマダラのリュウくんが、「ぼくをにがしてくれたら、たのしいところにつれていってあげるよ。」

といったので、まりあは、リュウくんも、そして、ほかのつかまえたなかまのちようちよたちも、みんなにがしてやった。「バイバイ、また、あおうね。」

といって、おわかれた。

でも、リュウくんだけはのこっていた。リュウくんは、

「やくそくどおり、ネリヤカナヤのもりにつれていくから、さあ、せなかにのって。」

といった。まりあは、わくわくして、せなかにとびのった。

かぞくといっしょのちようちよとりもたのしかったけど、こんどの、リュウくんといっしょのぼっけんはもっとおもしろそうとおもった。うれしくて、こころがとびはねていた。そして、ふたりのぼっけんがはじまったというわけ。リュウくんのせなかにのって、ひ

らひら、ひらひら、どこまでも、どこまでもとんでいって、ひろ
きにのっているみたいで、いいきぶんだった。

たどりついたところは、ひろーい、ひろーいネリヤカナヤのもり
だった。ふたりをむかえてくれたのは、さっきにがしたちようちよ
うたちだった。

「ようこそ、ネリヤカナヤのもりへきてくれたわね。」

と、みんなのちようちよが、こえをあわせていった。

「さっきのおれいに、ハイビスカスばたけへごしょうたいします。」
と、ムラサキシジミのムーランがいった。そして、みんなでもかっ
た。

そのおはなばたけのハイビスカスは、こんなみたことがなく
らいに、すごく大きくて、すごくあざやかできれいだった。その
みつをすってみると、あまくて、こおりぎとうのあじがして、おい
しかった。

おなががいっぱいになったので、こんどはみんなで、かくれおに
をすることにした。おには、リュウくんがなった。まりあは、大き
なハイビスカスのなかにかくれた。いいかくればよかったので、
なかなかリュウくんにはみつからなかった。リュウくんは、いっぱ
いいっぱいがんばってさがしたけど、みつけれなくなつて、

「こうさーん。」

といった。すると、ハイビスカスのはなのなかやしたから、ちよう
ちよやまりあたちが、

「ここだったんだよ。」

と、つぎつぎにでてきた。

「そんなところにいたんだね。かんたんだったんだ。ぼくは、くろ
いのがみえたのは、はねがきれておちたんだとおもったんだよ。」
と、くやしそうな、つかれたこえだった。

まりあは、ともだちになったムーランから、かくれているあいだ
に、ネリヤカナヤのもりのことをたくさんおしえてもらったので、
うれしくてたまらなかった。でも、おにだったリュウくんは、つか
れがいっぱいなので、

「リュウくん、つかれたでしょう。はっぱのおふとんで、ひとやす
みしてからかえろうね。」

と、みんなでやさしくこえをかけてあげた。

リュウくんが、ひとやすみしているあいだに、まりあは、また、
もりのつづきはなしをきいた。

もりには、大きな大きなシイの木のおじいさんがすんでいて、も
りじゅうのどうぶつたちが、おじいさんの木にあつまってくるんだ
そうだ。どうぶつたちのこともきいた。

あまみのクロウサギのピヨノは、ジャンプがとくいで、イノシ
シのノツシーは、こころがとつてもやさしくて、のねずみのミニ
ーはおりょうりがじょうず、そして、オットンガエルのガマくんや、
ルリカケスのルルちゃん、つたがとつても大好きなんだって。

まりあは、もりのどうぶつたちに、はやくあいたくなつた。

「あー、よくねたら、きもちすつきりになつたよ。」

と、リュウくんが、にこにこしておきてきた。

「さあ、せなかののって、しゅっぱつしんこうー。」

と、みんなで、もりのおくのほうへいそいだ。

すすんでいくと、シイの木がみえてきた。みんなのいつていたと

おり、ほんとうに大きかった。まりあが、

「こんにちは。わたしのなまえはまりあです。よろしくおねがいします。」

というと、おじいさんの木は、

「あいさつのじょうずなおじょうちゃんだこと。」

と、につこりと、やさしいこえでいった。まりあは、ほめられて、こころがほかほかになった。すると、そこへ、

「おじいさん、チーズケーキをやいたんだ。たべておくれ。」

と、のねずみのミニーが、チョコチョコやってきた。チーズのいい

においがした。リュウくんは、たたくてよだれがでてきていた。

「たくさんやいたから、みなさんでどうぞ。」

とミニーがきつてくれた。みんなでたべると、

「うまい。」

と、みんながいった。ほっぺがおちそうなくらいおいしかった。や

つぱり、ムーランのいったとおり、ミニーはおりょうりじょうずなんだなあ、まりあはおもった。

ケーキがおいしくてたくさんたべたので、のどがかわいてしまった。おじいさんの木のみぎのほうにいけがあったので、てにすくてのもうしたら、

「グア、グア、グア、グア、ゲロゲロゲロゲロ、グア、グア、グア。」

と、オットンガエルのガマくんのうたこえがきこえてきた。こえのするほうをみると、はっぱのよこからかおをだした。

「わあ、でかい。」

と、まりあはびつくりしていった。ほんとうにカエルのおおさまみたいで大きかった。すごいもりだなとおもった。

「ちよっとたんけんしよう。」

と、まりあは、もうすこしおくのほうに、ひとりですんでいった。

もりのなかには、すすしくてきもちよかった。

たのしいきぶんで、どんどんあるいて行って、みちのわきみちにでてしまった。まいこになってしまったんだとおもっていると、そこへ、とつぜん、ニヨロニヨロとみちをはっていくのがみえた。

「あつ、ハブだ。」

と、まりあはこえをふるわせていった。こわくてめをつぶると、ドシドシあらそうおとがした。こわかったので、まりあは、めをとじたままだった。

しずかになって、めをあげてみると、イノシシのノツシーがハブをたいじしていた。まりあは、イノシシってハブよりつよいんだとおもった。もりのみんなをまもっているんだなあとかんしんした。

「ひとりでいるんなところに行くんじゃないよ。」

と、ノツシーはやさしくおしえてくれた。まりあは、

「たすけてくれて、ほんとうにありがとう。」

と、おれいをいった。そして、まりあは、ノツシーといっしょに、みんなのところにもどった。そして、みんなに、おそろしかったこ

とをはなした。

ひとりでいくと、まいごにもなったし、こわいめにもあって、もうぜったいに、そんなことしないぞと、こころのなかでまりあはおもった。ドキドキしたきぶんがなかなかとれなかった。

しばらくして、

「ピュー、ピュー。」

と、かわいいあかちゃんの名きこえがした。あまみのクロウサギのピョンコが、あかちゃんをつんだからだった。

「ピューイ、ピューイ。」

と、ピョンコのこえもした。

あまみのクロウサギにあえて、まりあはうれしかった。みみはながなくて、みじかかった。あかちゃんは、とつても、とつてもかわいかったよ。はっぱのおふとんで、すやすやねむってしまったので、ピョンコは、あなのなかにつれていった。

まりあも、いろんなことがたくさんあって、ねむたくなってしまう。ピョンコにたのんで、おじいさんの木のたかいおうちまでつれていってもらった。ピョンピョンジャンプして、すぐについた。

つかれたまりあは、木のベッドのはっぱのおふとんにもぐりこんで、あつというまにねむってしまった。

まりあは、ゆめのなかでも、もりのどうぶつたちと、あそんでいるたのしいゆめをみた。まりあは、ルリカケスのルルちゃんと、うたをうたったり、はっぱのふえをふいたりしたゆめがおきにいりだった。

そして、もりのあさがやってきた。

「トウ、ルルルル。」

と、きれいなアカシヨウビンのアイコのなきこえでめをさました。もりは、とりのなきこえがめざましとけいたと、まりあはおもった。

あまみのもりは、ほんとうにステキだった。まりあは、おじいさんの木と、

「あきに、シイのみひろいくるね。」

と、やくそくした。

まりあは、ことしのなつのもりのおもいでを、ぜったいにわすれないよ。たくさんのきれいなちようちやいろいろなやさしいどうぶつ、そして、シイの木のここにいるおじいさんのことを。

「みんな、あきに、またくるからね。ばいばい。」